

編集室から

早いもので、今年も前半が終わり、後半に差し掛かってまいりました。光陰矢のごとしと申しますが、この調子で、或いはさらに加速度的に時間が経過していくとすると、雑事に追われて為すべきこと・やりたいことができない時間の過ごし方から脱出するためには、相応の覚悟を以って日々臨む必要がありそうです。

さて、寄稿欄で井垣さんにも触れて頂いたように、先月は彼の開業祝に全国から寮生OB連が集まって祝宴を張りました。学生時代を共に過ごした面々は、青臭い書生から、それぞれの人生を踏み出しています。そして、平日のど真ん中に四国に集合するというミッションを見事に達成し、パッと祝ってパッと仕事に戻る姿に、仕事の調整ができる活躍ぶり、それぞれの甲斐性が伺えます。それにもまして主賓たる開業を決断し成し遂げた井垣君とのご縁と、彼の人徳の為せることと拝察していました。

平生行状が大事と云われますが、いざというときに、過去からのご縁や言動の積み重ねが効いていることを改めて痛感した次第です。

表向きは、寮生の人生イベントに相乗りして一杯やろうぜ！という魂胆だと、誘い文句を謳っていましたが、それに即答でハイ！Yes！是非！が返ってくる寮生各位の心意気にも感謝一杯でした。のみならず、奥方様も伴って参加したツワモノも2組み居て、感動ものでした。

日々忙殺されていると、人の慶事を寿ぐ余裕も失いがちですが、それを忘れないからこそ皆それぞれの場で活躍できているのでしょう。

卒寮して30数年、相変わらずの気風に触れ、元気な姿と、変わらぬ様子を見て、ほとんど何も考えていなかった学生時代を思い出しながら瀬戸大橋を戻ったのでした。

単に「あの時は良かった」ではなく、これからも素晴らしい時を重ねていくために。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2019/07
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2019/07
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

文 月



昨年30回目を迎えた
世界的Jazzフェス
石川県七尾市にて by hama

今回は、別の話をします。「老後に自己資金二千万円」と聞いて、皆さんはどう思われましたか？二千万円という金額をどう考えるのか、それをどうやって捻出するのか…。しかし大事なものは、お金なのでしようか。貯蓄が二千万円あれば、幸せな老後が送れると安心できるのでしようか。

皆さんは、自分が老いて衰えて死んでいく様をイメージできますか？医療が介護に携わって繰り返し見せつけられない限り、なかなか難しいかもしれませんが、ヒトの老後を直接左右するのは、「脳の機能」と「心肺機能」と「食べる能力」と「運動機能」だと思います。その全てが保たれていないと、老化による身体機能の崩壊を止める事は極めて難しくなります。どんなに頭がシツカリして心臓が丈夫で食べられていても、膝が痛くて動けなくなれば一気に筋力が低下するし、寝たきりや認知症になる危険性が高まります。どれが一つ欠けても、影響は全身に及びます。そして衰えて介護が必要になった時、お金でどこまで解決できるのでしようか。五千万円あっても一億円でも、寝たきりを快適に過ごせるとは思えません。介護の問題は、少子高齢化や財政難や外国人労働者など様々な視点から考える必要があり、明確なビジョンを誰も示せていません。

人生百年時代は、否応なく長生きさせられてしまつ、コロッと死ねない恐ろしい時代でもありません。現在ですら、心筋梗塞でも脳梗塞でも、ヒトは簡単には死ななくなりました。これからは抗癌剤と抗生剤に大きな進歩が見込まれるので、癌と肺

濱の起業塾 三 『立志』

先月号に続き、志の四次元スケールについて。

影響する範囲が広く、さまざまな立場の人々に何らかの影響を及ぼそうとするのが社会的事業である。とするならば、「視点の広さ」は、その事業の生命線であるとも言える。これが四次元の三つ目である。

コミュニケーション内外のどんな属性の人に、どんな影響を及ぼすのか。あるいは、考えうるリスクは何か。より大きな社会環境は、根本的にどのような変貌を遂げようとしているのか。これらをより性格に見渡す「視力」が備わっていると、よりの確な準備が自ずからなされよう。

純粋な民間事業では、サービス・製品を購入することで何らかのメリットを享受する顧客と、それらを伝え提供する側のシンプルな関係に集約可能である。ところが社会的事業では、関係する機関・組織・個人との関係は、単なる金銭的契約条件のみで処理されるものではない。使命感をベースに社会問題の認識レベルや、その解決アプローチについても意見・

炎も益々死に難くなつていくでしょう。でも体力は落ちて低空飛行が続くので、医療費も介護費用もかさみます。死なずにいて介護も受けずに済むためには、脳も心肺も胃腸も運動能も健全に保たねばなりません。どうすれば、それが可能なのか。きつと、その答えは薬剤ではなく生活習慣なのでしようし、個人による違いも大きそうです。その答えをこれからもずっと追い求めていくことが、私のライフワークです。

お気付きかと思いますが、肩書きが変わりました。十年間お世話になった麻田総合病院（二〇一八年から、まるがめ医療センターに改名）を退職し、私の五十八回目の誕生日に当たる六月十一日に、高松駅前で生活習慣病専門のクリニックを開業しました。どうすれば、目の前にいる方の健康寿命を伸ばせるのか、それに専念していくためです。幸い、以前から私の想いを理解してくれていた三人のコメディカルが、力を貸してくれることになりました。そして濱さんには、何度も高松まで足を運んでいただき、貴重なアドバイスを多々いただきました。そのうえ寮の面々に声かけをして、平日にもかかわらず八名の先輩・同級生・後輩が高松に集まり祝ってくれました。本当に、有難いことです。



【プロフィール】

（いがき としお）金沢大学北浪寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。



立場が食い違ふことが少なくない。そのため、起業家には一層広い視野と影響力が求められることになる。これが米国著名学者をして「社会事業の経営は民間事業よりも難しい」と言わしめた理由の一つであろう。最後の「時間の長さ」は、事業の賞味期限に相当する。現在流行っていることに手を出すと、流行の盛衰に身を委ねることになる。勢い賞味期限は短くなりやすい。

ITを始めとする最先端技術も魅力的である。だが、変遷が激しい世界に足を踏み入れ、そこでも戦う知力・体力という起業資源が、自らに備わっているのか。一度立ち止まって振り返ることも大切だろう。

問題解決手法は、比較的分かりやすい。であるが故に、それに重きを置き過ぎる事態に陥りやすい。技術力での力バより本質的解決に注力する方が、その事業が社会的に有効であり続ける時間スパンが永くなる傾向にある。このことを深く理解している方が、重要ではないだろうか。

より根源的な課題解決のアプローチを探り、世界標準が落ち着いてから先端技術を導入しても遅くはないかも知れない。

北陸新幹線の段階的延伸とともに、スムーズな広域移動が可能となってきた。移動時間と乗継回数の減少によって、より遠くへより気楽に行けるようになる。特定の列車や乗継自体を目的とする旅行は別として、ほとんどの場合、これらの減少は、新たな旅行行動を誘発する。

ただし、北陸新幹線の整備によって移動時間の減少は概ね実現するものの、乗継回数が逆に増加するような経路がある。富山の方は既に金沢開業時にその不便さを実感しており、4年後の敦賀開業時には金沢や福井で同様の現象が遅れて生じることとなる。

具体的には次のような乗継回数の増減が生じる¹。

< 長野～金沢開業時の主な乗継回数の変化 >

- ・金沢駅、富山駅～大宮、東京駅： 1 0（越後湯沢駅乗換 直通）
- ・金沢駅、富山駅～長野駅： 1 0（直江津駅乗換 直通）
- ・金沢駅、富山駅～仙台駅： 2 1（越後湯沢、大宮駅乗換 大宮駅乗換²）
- ・富山駅～福井、京都、大阪駅： 0 1（直通 金沢駅乗換）
- ・富山駅～名古屋駅： 1 2（米原乗換 金沢、米原駅乗換）

< 金沢～敦賀開業時の三大都市圏への乗継回数の変化 >

- ・福井駅～長野、東京駅： 1 0（米原駅 or 金沢駅乗換 直通³）
- ・富山駅～福井駅： 1 0（金沢駅乗換 直通）
- ・金沢、福井駅～京都、大阪駅： 0 1（直通 敦賀駅乗換）
- ・金沢、福井駅～名古屋駅： 1 2（米原乗換 敦賀、米原駅乗換）

このように、東京へ行くのには便利になるが、大阪、名古屋へは不便になる。すなわち、北陸新幹線の段階的延伸により、段階的に北陸が首都圏に組み込まれ、近畿圏、中京圏とは切り離されていくということだ。この現象は敦賀～新大阪間が整備され北陸新幹線が全線で開業するまで続くとともに、中京圏との不連続性はその時点においても未解決のまま残る可能性が高いと思われる。

北陸は三大都市圏のそれぞれに近接し、文化や経済面でそれらと深く結びついてきた。東京一極集中の進展とともに、北陸の東京シフトが進み、これが北陸新幹線の段階的開業によって加速化する。近畿圏や中京圏とで生じる乗換抵抗をたかが1,2回のことと軽く見ず、シビアな現状を正確に理解し、リアルな施策や事業を実施・要望していくことが重要であろう。

注1：主要な経路、列車を選択した場合

注2：直通の旅行商品の設定あり

注3：実際には直通列車の運行本数は多くないことが想定される

このコラムを書かせていただいて6年目に突入し、いつ引退しようかなと思っているのですが、実は、自分の今考えている思考や想いを可視化して納得する作業としては実にいいですね。なのでクビを言われたい限りは続けようかと。

最近主に時間を投下しているのが、PTA会長という仕事です。営利集団の会社組織のトップとは、ボランティア組織であり無報酬であること、何よりトップダウンはNGで合意形成が重要というところが一番の違いなのですが実はこれがほんとおもしろい仕事なんです。何がというと、それぞれ価値観やゴールが違う「子供の保護者」・「学校の先生」・「役所」・「地域の重鎮（町会や商店会など）」というステークホルダーとともに、子供を中心とした地域社会を共創するという大きなプロジェクトを進めるわけです。これほど企画力と交渉力がつくプロジェクトマネジメントは中々存在しません。

ビジネスの基本である、5W(だれのために・なぜ・なにを・いつ・どこで)1H(どのように)が、実はPTAといえますか地域社会の中では中々整理することが困難です。前述したようにステークホルダーの目線やゴールが異なるからです。

- ・役所は都や区の方針のもと地域と学校が連携して地域の安全を守ってほしいというお題目とお金を与える
- ・地域の重鎮は経験と知恵があるが、実働部隊として動く若い人がいないから、保護者を動かしたい、使いたい
- ・最近の保護者は共働きも多く時間がない。また地域の仕事はやらされ仕事が多くモチベーションがわからない
- ・学校の先生は教育が仕事であり、地域社会との関わりはできる限り避けたい。(教員の仕事量が増えているということも影響)

結局「子供たちが地域の中心に存在する」という前提を忘れて、大半が大人の事情を振りかざしているに過ぎないというケースも多々あります。

では、これをどう解決していくのか？まだ何も解決できてはいないのですが、僕の中でのこの2年間のテーマは

受動的な立場から能動的な立場に子供をリポジショニングする

今までは地域社会から恩恵を受けるだけだった子供たちが、自分たちを守ってくれるための社会づくりに参加するということです。

真の意味で子供が中心となり、それをサポートする衛星としては各ステークホルダーという構造にしていくことを考えています。

やりたい人がやる、組織横断型のPJチームづくり

これまたPTAにありがちな「平等義務」と反する考え方でして従来は「だけもが出来る限りのことを平等に」なんです

それだと子供たちのためにやる気のある方の気持ちを阻害してしまうんです。やれる人が最大限できる受け皿づくりとして「地域・保護者・教員が1つの地域課題に対して単一プロジェクトとして活動する体制を整備」です。

こんなやりがいがある仕事、PTA会長しかできないかもしれない!!!

『富士の国から ~大魔神のたび~』 島根県への旅(2019.5.24~26)
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

昨年11月に職場の親睦旅行で鳥取、島根に出掛けた。松江の街中を歩いていたときに気になるポスターを見つけた。そこには「十年に一度の船神事ホーランエンヤ」と書かれていた。じゅ、十年に一度とは！どんなものだろう、しかもホーランエンヤとは変わった名だ。3月になり、ふとその事を思い出し、ネットでみると5月18日、22日、26日と飛び飛びに祭典が開かれることになっている。幸い、静岡空港から出雲空港には毎日飛んでいる。十年に一度しかないなら、行くしかない。5月26日の最終日を目指そう、ただ、宿がとれるのかなと思いつつ、JALのホームページからエア&ホテルで検索したところ、松江駅そばのエクセルホテル東急2泊分が飛行機チケット共に予約できた。レンタカー付けて6万円弱だ。

島根県観光には宍道湖を挟み出雲と松江の二拠点がある。まずは、出雲に向かう。出雲大社そばの「きずき」という民家で営業しているそば店に入る。有名店の荒木屋に入ろうとしたが、待っている人多数につき、近くでたまたま見つけたお店にしたところ、ここが大正解。出雲そばと言えば割子そば、3段から5段まである。一段250円勘定、最低4段は欲しいかな。そばの実を甘皮ごと挽くため黒っぽい麺が特徴、しっかり手打ちされコシは強い。一番目の椀に汁を入れてそばをすすり、残った汁を二段目に入れ、新しい汁も加えすする、そしてまた下の段に進むというのが、食べ方だ。所謂もりそばだから、それなら違うものをと、鴨南蛮にした。熱い汁に冷たく締めたそばを入れて食べる。鴨とネギでまずは一杯やってそばに進みたいところだが、車の運転が待っているため、諦めた。期待通りの旨さだ。♫は蕎麦湯を注ぎ飲む。

そばの後は出雲大社に向かう。昨年来た時に、菊竹清訓の名作、RC製の大社庁が無いことにショックを受けた。稲束の日干しの方角をモチーフにした合掌づくりの形態を持つ、その印象的なデザインは一度見たら忘れることはできない。建築協会賞も得、日本百建築にも選ばれた秀作だ。どうやら取り壊され、何か建築中だった。どんな建物に建て替わったのか心配だった。白木の真面目な和の建築になっていた。いい建物であることは、よくわかる。少し、物足りなさを感じつつ、出雲大社を後に県立古代出雲歴史館に寄った。こちらは榎文彦のデザインだ。ヒルサイドテラス、スパイラル、幕張メッセ、京都国立近代美術館等、色褪せしない都会派の建築家の作だ。



建築もさることながら、高さ48mもあった古代の巨大神殿の模型が一見だ。この後も出雲文化伝承館、民藝館に寄って松江に向かった。今回の旅で、島根県には博物館、資料館、神社、遺跡、寄るべき処が多く、その密度の高さにいた。島根県の「人はいませんけど、神さまはたくさんいます」のコピーは正しい！

翌日は今回の旅の最大の目的、ホーランエンヤ見物だ。変わった名前だ。祭の掛け声からきている。正式には城山稲荷神社式年神幸祭という。1648年に松江松平藩主の松平長政が始めた神事である。

松山城にある稲荷神社の御神霊を船で10キロ程、川を下り、阿太加夜(あだかや)神社に持っていき祈願する。そしてまた還っていく。5月18日の往路が渡御祭、26日の復路が還御祭と称される。船に乗っての祭だからそもそも珍しい、その上10年に一回ともなれば興味の高まりを押さえることはできない。祭の人出は全体で38万5千人と発表された。松江の人口20万人、島根県71万人を思えば、相当な吸引力だ。

5月26日の還御祭の見どころは宍道湖から中海を結び、松江市の市街地を流れる大橋川に架かる四本の大橋の橋の間ごとに繰り広げられる權伝馬(かいでんま)躍りの奉納だ。權を操る際の音頭取りとぴったり揃った權かき、船首に立つ剣をかたどった權を突き上げて大見得を切り踊る「剣權(けんがい)」、船尾では鮮やかな布を付けた棒を振って体を仰け反らして踊る女形役者「采振り」が見せ場だ。これが五隻出る、神様乗せた神輿船の引き船役で「權伝馬船」と言う。この船を出す地区を「五大地」と呼ぶ。人口減少で權伝馬船を繰り出す5地区は人手不足に苦慮している。5地区の内2地区は35軒しかない。船に乗るは30人以上いる。その船をサポートする数隻の船も必要で、人手不足は明らか。それに船の装飾、衣装、化粧を見れば相当な出費も伴っている。10年に一度では伝承にも相当な苦労がある。だからこそ、5月の陽光に耀く大橋川をゆく、きらびやかな船団の大絵巻を見ると感無量！はるばる松江にまで来た甲斐があった。大橋川の川べり、4本の大橋の上も人だかり、こんなに多くの人を一望することは無い経験だ。皆の大きな拍手にかき消されそうだけど、ホーランエンヤの圧倒的な音量は川面を震わせる。十年後にまた聴きたいものだ。市内にホーランエンヤ伝承館があるので、祭りのことを知ることはできる。

今年は一関市の水かけ祭り、掛川市横須賀の三熊野神社祭りに続く祭り見物になった。次は、京都祇園祭を暑さ真っ只中の京都に出かけることにしている。すでに宿はとった。地域の誇りを見て回ることが今年の旅のテーマだ。

